

補習校だより

2018年4月4日発行



ノウルーズモバラケ！毎年、太陽が春分点を通過する時刻と同時にイランは新年を迎えます。今年は西暦3月20日の夜9時45分でした。これからは日ごとに月より、太陽の出ている時間の方が長くなっていきます。そして街路樹の木の芽は日に日に青さを増し、新緑が美しくなっていきます。

秋から始まった補習校、子どもたちもこの新緑の様に冬の間に貯めた養分で、春に芽を出し、花を咲かせることでしょう。来月の修了式では日ごろの成果を存分に発揮しましょう。

今月(ファルヴァルディン月)の予定

	イラン暦	西 暦	
休 校	1397/1/2 パンジシャンベ	2018/3/22(木)	ノウルーズ
休 校	1/9 パンジシャンベ	3/29(木)	(春休み)
第19回目授業	1/16 パンジシャンベ	4/5(木)	通常授業
第20回目授業	1/23 パンジシャンベ	4/12(木)	通常授業
第21回目授業	1/30 パンジシャンベ	4/19(木)	通常授業





《行事報告》

茶道体験

2月22日に日本人学校保護者の足立佳生さんのご協力で日本の伝統文化、茶道を体験することができました。足立さんは茶道裏千家に造詣が深く、参加した補習校生と保護者に分かりやすく、「お茶を点てること、お茶を

戴くこと」の説明をして下さいました。

当日はひな祭りが近かったので、お雛様の絵柄の扇子と、貝合わせの蛤の中に香木をしのばせた盆を飾り、茶道の世界観をよく表す『一期一会』の掛け軸でお茶室の雰囲気再現していました。

「今日のお茶会という瞬間があるのは、後にも先にも今日一度きり。だからこそ、その瞬間を大切にし、お茶をたててくれた人、お茶を生産した人、ここに連れてきてくれたお父さん、お母さん、会場を用意してくれた人など、すべてに感謝を込めてお点前を戴きましょう」

という素敵なお話を、丁寧にお茶を点てながらお話しして下さいました。その後、ご用意して下さいった和三盆の干菓子と補習校保護者の手作りの桜餅を味わい、皆で点てたお茶を順番に戴きました。



イランで私たちが朝食や、家族団らんに欠かせない紅茶もお茶の楽しみのひとつですが、日本ならではの季節感や礼儀作法を大切にしたい「茶道」もまた格別なお茶の楽しみ方です。

これからも子どもたちが日本文化に興味を持つ、きっかけのひとつになればよいですね。

《感想文》

「お茶会体験をして」 4年 加藤ルミナ

今年二月二十二日の日本語補習校で、お茶会体験がありました。

わたしは、初めての体験でした。

女せいの足立さんが、色々とお教えてくれました。

少しのまっ茶を飲むだけなのに、たくさんの礼儀作法がありました。

「おてまえちょうだいいたします」と言うのが、むずかしかったです。



お別れ会

3月1日に、補習校にも大変ご尽力いただいたテヘラン日本人学校、清水校長ご夫妻のお別れ会を行いました。

以下、教員代表より感謝の気持ちとしてのコラムを掲載いたします。



🌸コラム🌸

3月は別れの季節です。長い間、補習校でも大変お世話になった清水校長ご夫妻が日本にご帰国なさる事となり、先日ささやかなお別れ会を補習校で行いました。

この4年間、今まで補習校では経験できなかったたくさんの行事に参加させていただき、子どもたちはたくさんの新しい体験をする事ができました。

「運動会？運動会ってなんですか？」

こちらで育ち、教育を受けている子どもたちは、まず運動会という言葉を知りませんでした。練習を重ね、友だち同士協力し合い、自分の力を出し切るリレー。一生懸命に練習をしたからこそ感じる悔しい気持ち。

「あのお友達どうして泣いているの？」

その質問に、そうかイランの学校では全員がこのような経験はできないのだと、改めて気がつきました。

補習校内では、伝えきれない日本文化や、日本の行事。

挙げたらきりが無い程、一つ一つの行事がイランでは経験できない貴重なものでした。イランの生活に埋もれ、すっかり忘れつつあった日本文化の素晴らしさを、保護者の我々も思い出し、子どもたちにきちんと伝えていかなくてはならないと刺激されました。

また、校長先生の奥様、温子さんを筆頭に今までたくさんの方々が補習校に来て下さり、子どもたちにたくさんのことを教えて下さいました。

人と人の繋がりは不思議なものです。

補習校は、保護者以外にも多くの方の繋がりで子どもたちを育て、見守っているのだということを忘れてはいけません。

一つ一つの繋がりを大切に、感謝の気持ちを持ち続け、今後も続けていけたらと思います。

校長先生・温子さん、4年間、勉強以外にも、たくさんのことを教えていただきました。どうもありがとうございました。

教員 長谷川可奈子



🌸読書感想文紹介🌸

☆3年生クラス

『エルマーとりゅう』 3年 原えりか

りゅうをたすけたエルマーのぼうけんのつづきです。
カナリヤ島でカナリヤの王さまのしりたかったたからものが何かと、とてもわくわくしました。
たからばこの中に、もっと金があればよかったなと思いました。
竜のせなかに乗って、エルマーは、ぶじに家についてうれしかったです。
りゅうがいたら、たすけに行って、ぼうけんをしたいです。



『足ながおじさん』を読んで 3年 榊原セレナ

わたしは、『足ながおじさん』を読んで、とてもおもしろいストーリーだと思いました。

なぜかという、こじいんで育った女の子のジュディが、あしながおじさんのおかげで、うん良く大学でべん強することができたことです。そして、さい後まで、あしながおじさんがだれなのか、ジュディは知らないことです。

大金持ちの足ながおじさんは、作文の上手だったジュディが作家になれるように、大学へ行かせてくれるのです。とてもやさしい人だと思いました。そして、お金持ちの人は、自分かってでえらそうな人ばかりのようなイメージがあったけど、中にはあしながおじさんのようにやさしい人もいたんだと分かりました。わたしも、いつかめぐまれない子どもたちのために、少しでもおてつだいができればいいなあとと思いました。

ジャービーおじさんが、はいえんにかかってしまった時は、どうなるか心配でした。

さい後に、ジャービーおじさんが、あしながおじさんだったと、ジュディが分かって、本当に良かったなあとと思いました。

この物語は、ハッピーエンドですが、それは、ジュディがじゅんすいで、いつも前向きだったからだと思います。わたしも、ジュディのように、いつも前向きに生きていきたいです。

☆4年生は教科書『ごんぎつね』より感想文を書きました。

4年 牛越さくら

私は最初ごんぎつねは悪いきつねだと思いました。でも話をよんでいくうちに、ごんぎつねは、やさしくていいきつねだと思いました。ごんぎつねは兵十がお母さんをなくしてかなしいと思い、兵十のためにどんぐりやまつたけをもっていつてあげて、やさしいきつねだと思いました。



「かわいそうなごん」 4年 田中良杏

ごんは、兵十のおっかあが死んだことを知って、あんないたずらをしたことをこうかいした。

前はいたずらっこだったごんが、やさしくなっていた。



ごんが毎日、兵十に松たけとくりを持っていつたのに、兵十は神様がめぐるんてくれていると思ってしまった。気付かない兵十が変だと思ったし、ごんがかわいそうになった。

ごんはがんばってたのに、最後に火なわじゅうでうたれて、本当にかわいそう。続きがあったら、兵十がごんをお医者さんに連れていつてくれるといいなと思った。

☆6年生は教科書『この絵、私はこう見る』より作文を書きました。

「この絵、私はこう見る」 6年 鈴木まり

わたしはピカソの3人の音楽家という絵をしようかしたいと思います。この絵の題名のとおり、三人の音楽家が楽しそうにギター・リコーダーを持ち、ひいていると思います。

この絵のおもしろい所は、三人の人体のパーツが絵にとけこんでお互いからみ合っているところです。たとえば、リコーダーを持っている人の横に犬がいて、犬のかげが絵のいろいろな場所にあります。



わたしはこの三人の音楽家がいる場所は夜であり、クールな森の中のお店だと思います。なぜなら、周りが暗いのに三人の音楽家の明るい服装がはっきりと見えるからです。

この人たちは、宇宙から来た人たちだと思います。なぜなら青や不思議な色の顔をしているからです。この人たちは、ギターやフルートを持っています。楽器を演そうしています。おそらくコンサートのために宇宙からやって来たのでしょう。

この人たちは、体も顔も四角です。森のおくでコンサートの練習をしています。ポーズがとてもださいです。これでは地球人には受けません。おまけに音楽は下手そうで洋服もたばこのにおいがついているでしょう。もう一度、宇宙に帰って出直した方がいいと思います。

しかしピカソの絵に似ているので、きっと価値の高い絵なのだと思います。

☆中学部

故事成語「五十歩百歩」か「矛盾」の意味と同じような体験をした体験文を書こう。

「五十歩百歩」

中学部 小林宗平

ある日二人の泥棒がいました。二人は貴金属店にぬすみに入りました。一人は二キロの金をぬすんで、もう一人は五キロの金をぬすみました。外へ逃げようとしたら途中で警察に捕まりました。そして裁判の日に一人の泥棒が裁判長に向かっていました。「あいつは五キロもぬすんだが私は二キロしかぬすんでいない。だから私の刑をかるくしてください。」と言いました。だが裁判長は言いました。「たしかにぬすんだ金の量に違いがあるが、泥棒という罪をおかしたことはかわりない。」



編集後記

ノールーズの最終日、スィーズダベダルは「自然の日」として、イランでは昔から家族みんなでピクニックをして外で一日を過ごします。補習校の皆さんも、この休みの間でイランの家族と親密な時間を過ごされたことでしょう。春になり、夏になる前の、外で活動するのに気持ちのいい今の時期、自然の中でのんびりして英気を養いましょう。学校や補習校の年度末はもうすぐです。今週末からまた張り切っていきましょう。